

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名	キッズボンド東郷			公表日	2025年2月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		物を配置しすぎず、広い空間を確保している。	新しく利用開始してくれる子も増えたため、様々な性格・特性の子に合わせて適時環境整備していかなければならない。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	○		外出等の内容によってシフトを調整し、安全に配慮している。	どのような職員がいるかも交流を通して知っていたらよい。保護者会も実施していく予定。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		必要に応じて写真やイラストを利用して視覚的にわかりやすい環境を整備している。	まだ物の配置が覚えにくいものもあるため、引き続きわかりやすい環境整備が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもたちが気持ちよく遊べるよう、毎日清掃を行っている。	掃除道具等古くなってきたものの買い替えは必要。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動等もやる内容によって場所を変えることもある。基本は使っていけない場所でも、必要に応じて子どもが落ち着けるまでの特別スペースとして使う等、柔軟に対応している。	床のカラーテープ等、もっとわかりやすく張り替えていく必要がある。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティング時に先日の振り返りも行い、より良い環境作りにも努めている。正職やパート等立場を問わず、意見を出し合い良いものを取り入れるようにしている。	長期休暇等の場合はミーティングをする時間がなかなか取れないため、今後要検討。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者の方々の評価を真摯に受け止め、すぐ対応できるような対応できるようにしている。	保護者会等をまだ行っていないため、保護者と職員間での関りが足りていないと感じる。今後も送迎時等のやりとりも大事にしつつ、より良い事業所作りをしていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の様々な意見も出合っており、小さな改善も大事にしている。	まだまだ全体を通して改善の余地があるため、今後も話し合っけてより良い事業所へしていくよう努力していかなければならない。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後の第三者による外部評価にかかる費用の調整については検討する方向。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		キッズボンドグループ全体で年間の研修予定もあり、zoomも用いてできるだけ全員参加している。	研修を受けても職員の入替えがあるとまた研修が必要になってしまうという悪循環をなくすべく、働きやすい環境を作っていかなければならない。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		各事業所で内容も検討していき、スーパーバイザーも通してより良い支援プログラムの作成に努めている。	職員間でもしっかりと内容を確認して、より良い支援ができるよう話し合いをしていかなければならない。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		作成した計画書をスーパーバイザーも確認することで根拠と客観性も加味した計画書作成ができるようにしている。	新しい職員（1年未満）も在籍しているため、引き続きまずはしっかりと子どもたちと向き合って支援していき、関係作りをしていく中で子どもたちの性格・特性を把握していかなければならない。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		管理者・正職・パート問わず様々な意見を出し合っている。	新しい職員（1年未満）も在籍しているため、引き続きまずはしっかりと子どもたちと向き合って支援していき、関係作りをしていく中で子どもたちの性格・特性を把握していかなければならない。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		新しい仕組みも取り入れ支援に活かしている。	支援内容が変更した部分もあるため、引き続き職員も日々努力し、支援の質を上げていく必要がある。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		必要に応じてVineland等も使用している。	まだツールを使いこなせていないところもあるため、今後も勉強会等していかなければならない。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		スーパーバイザーを通してしっかりと内容も確認し、具体的な支援内容を設定している。	全職員でわかりやすく実践しやすい支援内容という点にも注意していかなければならないと感じる。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で様々な意見を出し合っている。	同キッズボンド内の他事業所の活動等も参考にして新たな取り組みができると良い。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員間で様々な意見を出し合っており、これまで行ったことのないおでかけややったことのない活動も毎月取り入れている。	さらに活動の幅を増やして子どもも職員も楽しめるものを実施していく。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		活動も選択制（遊戯訓練等一部は全員参加）にしており、やりたいことがあれば別途対応等、柔軟に対応している。	新一年生の子も増える予定のため、引き続き寄り添った支援していき、それぞれの性格・特性の把握が必要と感じる。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		役割が固定にならないよう日々の業務をローテーションするように取り組んでいる。	新しい職員も加入予定のため、再度業務内容を見直しわかりやすい業務改善をしていく必要がある。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		帰りの送迎後に時間がないため、翌日のミーティングで話し合うようにしている。	長期休暇等の場合はミーティングをする時間がなかなか取れないため、今後要検討。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の様子をしっかりと記録に残し、ミーティングも通して改善につなげている。	子どもたちと一緒に職員も様々な経験をまだまだ積んでいく必要がある。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		スーパーバイザーを通してしっかりと内容も確認し、見直しも行っている。	引き続き職員も経験を積みながら5領域の計画への理解を深める必要がある。
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		様々な経験が積めるよう外出先も固定しない幅の広い活動予定を組み立てている。	保護者の方も交えた活動等、まだ行っていないため、今後要検討。

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		状況に応じて、日々の声掛けでわかりやすい選択肢を提示し、選んでもらうような支援を心がけている。	子どもの最新の流行にも目を向け、新しいものも取り入れていけるようさらに視野を広くしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		参加時に事前の資料作成を心がけている。	まだ参加したことのない職員もいるため、機会があれば経験を積んでもらうようにする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		事業所だけではわからないこと等、送迎時等に各関係機関の方と情報交換して支援に活かしている。	送迎時だけでは時間に限りがあるため、別の機会も設けられるようにしていかなければならない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		適宜電話等で連絡調整している。	学校によって対応が異なるため、さらにわかりやすく整理していく必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて連携をとり、本人への理解を深めている。	できていないところもあるため、必要性を確認しながら適宜情報共有していく。
	30	学校を卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			当事業所で卒業生がまだいない。事前に研修等で知識を深める必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		キッズポンド内のスーパーバイザーを通して助言や研修を受ける機会を設けている。	今後は地域との連携もさらに考えていかなければならない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		様々なお出掛けを通して一般の子と関わる機会もある。	児童クラブや児童館へのお出かけはまだやっていないため、今後要検討。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			職員の入れ替えもあったためなかなか参加できていない。まずは事業所をより良いものへしていき、それから参加していきたいと考えている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の様子を送迎時に伝えていき、わからないこと等あれば電話等で情報共有していくよう心がけている。	保護者会等を実施し、お互いの理解を深めていけるようにする。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		モニタリング等でご質問等あれば意見を伝えるように心がけている。	保護者会等を実施し、ゆっくりと話し合える機会を設けていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		わかりやすくお伝えできるように心がけている。	細かく説明しきれていないところもある。また保護者の方もわからないことがわからないということもあると考えられる。
	37	放課後等サービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリング等で保護者の方のご意向等、毎回確認するよう心がけている。	意向を時間内に聞き切れていないこともあるかもしれない。
	38	「放課後等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等サービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の方の悩み等を職員間でも共有し、意見を出し合ってお伝えするよう心がけている。	悩み等に適切に答え切れていないこともあるため、引き続き研修や勉強会を通して知識を深めていく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			保護者会や保護者参加型の活動を今後実施していく予定。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		お互いの相違がないよう電話等で内容をしっかりと把握し、適切に対応するよう心がけている。	保護者会等を実施し、お互いの理解を深めていけるようにする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月写真付きのお便りを発行している。	どの活動の写真なのか等、わからないものもあるため、今後工夫が必要。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			写真の取扱いに関して、顔を隠し過ぎると誰の写真かわからない等の意見もあるため、工夫が必要。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		情報伝達ツールは必要に応じて変えている。	引き続き障害への理解を深めていく必要がある。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方の畑を借りて農業体験を行う等している。	イベントの費用や掛かる実費に関しては今後も要検討していかなければならない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年間の防災予定を作成し、毎月避難訓練も活動に入れ、同じ曜日に固まらない等の配慮もしている。	どこまでのマニュアルがあるのか等、保護者の方が認知していないことが多い様子。必要に応じて今後お伝えしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		適宜服薬状況等、保護者の方にも確認し、情報共有している。	改めて状況を整理し、わかりやすい一覧表作り直す必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		活動（ランチ作り等）でも配慮して行っている。	現状、重度のアレルギーの子はいないが、研修等で知識を深めていく必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		研修・勉強会を適宜実施している。	引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット・事故等あれば迅速に対応策を考え、実施するよう心がけている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		早期発見チェックリストを作成し、毎月全職員で確認するようになっている。	引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか。	○			引き続き研修等を通して理解を深めていく必要がある。